

正誤表・更新情報

本書中に訂正・更新箇所等がございました。お手数をお掛けしますが、下記ご参照頂けますようお願い申し上げます（2021年1月22日）

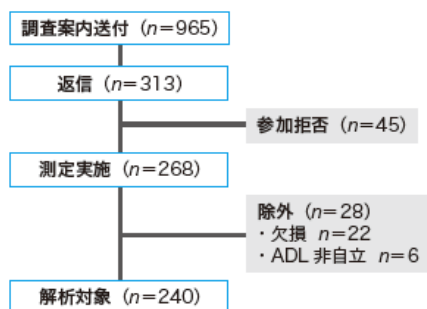
■第1版 第3刷（2019年10月10日発行）の修正・更新箇所

※第1刷からの修正箇所はhttps://www.yodosha.co.jp/correction/9784758102285_corrections.pdf をご参照ください

頁	場所	修正前	修正後	補足	掲載
2群間の比較 名義尺度 高齢者					
10	研究の流れ		※1参照		21/01/22
11	「解析結果の記載例」【結果】1～7行目	解析対象者は 248名 (70.3 ± 2.5 歳、女性 55%)で、認知機能低下あり群が 45名 、認知機能低下なし群が 203名 であった。全対象者のうち転倒経験がある者は 58名 (23%)であった。認知機能低下による群間比較を行った結果、認知機能低下あり群において 年齢が高く ($P < 0.01$)、 服薬数が多く ($P < 0.01$)、 歩行速度が低かった ($P < 0.01$)、性別の割合に有意な差はみられなかった($P = 0.870$) (表1)。	解析対象者は 240名 (71.7 ± 5.0 歳、女性 140名)で、認知機能低下あり群が 44名 、認知機能低下なし群が 196名 であった。全対象者のうち転倒経験がある者は 79名 (33%)であった。認知機能低下による群間比較を行った結果、認知機能低下あり群において、 転倒経験を有する者の割合は高かった ($P < 0.001$) (表1)。一方で、 年齢、服薬数、歩行速度、性別の割合に有意な差はみられなかった (表1)。	数値の全面的な改訂を行いました。	21/01/22
11	表1		※2参照		21/01/22
11	表2		※3参照		21/01/22
11	脚注※2、1～2行目	認知機能の影響を 受ける と考えられる変数	認知機能と 転倒に影響を及ぼす可能性 があると考えられる変数		21/01/22

図表

※1 以下の図への差し替えをお願いいたします(数値の全面的な改訂を行いました)。



※2 以下の表への差し替えをお願いいたします(数値の全面的な改訂を行いました)。

表1 各変数における認知機能低下による違い

	Mean±SD or %		P値
	認知機能低下なし群 (n=196)	認知機能低下あり群 (n=44)	
年齢(歳)	71.8±4.8	71.3±5.9	0.603
性別、女性(名)	117	23	0.367
服薬数(種類)	2.5±1.8	2.7±1.2	0.448
歩行速度(m/s)	1.37±0.20	1.37±0.19	0.926
転倒経験、あり(名)	50	29	<0.001

群間比較をStudent's t検定もしくは χ^2 検定にて実施した。

※3 以下の表への差し替えをお願いいたします(数値の全面的な改訂を行いました).

表2 転倒と認知機能低下との関係

	オッズ比(95%信頼区間)	P値
認知機能低下	6.64 (3.16-13.95)	<0.001
年齢	1.11 (1.04-1.18)	0.001
性別	0.78 (0.43-1.43)	0.425
服薬数	0.92 (0.76-1.10)	0.342
歩行速度	0.50 (0.10-2.44)	0.388

ロジスティック回帰分析を行い、オッズ比を算出した。認知機能低下なし群をReferenceとした。